

自由に意見を言い合える雰囲気の中で 学び、楽しい文学の授業を

今年度、国語部会では、「基本からしつかり学ぼう」と現場のニーズに合わせ「文学教材の授業作り」に的を絞り研究してきました。教材は初めて扱う人が多い「わにのおじいさんのたから物」(三年・学図)。死んだと思つたわにのおじいさんの体に、ほうの木の葉つぽをかけたおにの子の優しさ、美しい夕やけこそが本当のたから物だと思つたおにの子の純粹さ、心の豊かさ…。感動を呼ぶ物語で三年生がこの物語に取り組んだら、どう反応するかも楽しみな教材です。

みんなで学ぶと発見がいっぱい

教材分析の部会では、ベテランの方の教材分析の提案をもとに、全文を読み進めながらみんなで分析。「そういう意味がかくされていたのか!」等、楽しい発

見の連続。みんなで教材分析する事の楽しさや大切さを十分味わうことができました。これこそ現場でしたいことです。

次の授業作りの部会では、授業者の「子どもたち相互の意見を関連させて読み深めさせたい」「言葉にこだわって読む児童を育てたい」という願いのもとに、授業作りについて討論しました。一まとまりごとの話題の中心内容を何にしぼり、どう扱ったらよいのか。最後のまとめの扱い方をどうしたら、子どもたちの変容が見ることができるか…等。討論を重ねるごとに「なるほど」と方向が見えてきました。次は「授業作りパートⅡ」を開く予定です。

ある参加者の感想より

忙しい現場では、研究授業ですら教材分析がままならない中、じっくりと時間

をかけて教材分析をし、討論し合うことができ、自分自身の教材の読みを深めることができました。

「指導書」とは違う視点からの分析、子どもの視点からの指摘が多く、授業が楽しみななりました。ベテランの先生方の鋭い指摘と、若い先生たちの素朴な疑問が混じり合い、幅広い年代の意見交換ができてよかったです。特に、忙しい中参加してくる若い先生は、とても意欲的で、大いに刺激を受けました。

ズバリ痛いところを指摘されることも含めて、自由に意見を言い合える雰囲気がとても良いです。どちらかというところ、ベテラン・OBの方が現役より多いという参加状態が残念であり、もつたいないところでは、若い先生方にどう参加してもらおうかが課題です。

部会終了後、「今日は楽しかったあ」と、若い先生の声。忙しいからこそ、みんなと学べる楽しさを多くの若い先生方に実感してほしい、子どもたちと楽しい授業を繰りひろげてほしいと思います。

(共同研究者)